

ことばの迷い道

「似て非なる」を地で行く

ひだか しんすけ
日高 晋介

東京外国語大学共同研究員

わたしは、ウズベキスタンで話されている言語であるウズベク語を研究しており、ウズベキスタンには二〇一四年から二〇一六年まで二年ほど滞在していた。他方、トルクメニスタンには、日本語教師として、二〇一八年から二〇一九年まで一年ほど派遣されていた。もちろん、ウズベキスタンでは、おもにウズベク語で現地の人たちとコミュニケーションをとっていた。トルクメニスタンでも、トルクメン語で……といきたいところであったが、トルクメン語に慣れないうちは大変なこともあった。ただし、このふたつの国は旧ソ連を構成する共和国でもあったため、ソ連崩壊後の現在でも、ロシア語が広く通用することにも注意されたい。

さて、ウズベク語とトルクメン語の話に戻る。これらふたつの言語は「チュルク諸語」という同じ言語グループに属しており、多くの類似点をもっている。基本的な語彙でいえば、「二」「三」は、ウズベク語では「ビル」「イッキ」であり、トルクメン語では「ビル」「イキ」である。文法的要素でいえば、過去形は、ウズベク語では「ディ」、トルクメン語では「デイ」あるいは「ドウ」である。ただし、もちろん両言語のあいだには違点もある。したがって、ウズベク語を勉強すれば、トルクメン語を使いこなせるというわけにはいかない。これが悩ましいところでもあり、おもしろいところでもある。

わたしを困らせた両言語の差異として、記憶に

新しいのは「卵」である。わたしはスーパーに行って卵を探しているときに、この問題に直面した。ウズベク語では「卵」は「トウフム」というので、トルクメニスタンのスーパーでも、「トウフムはどこですか？」とウズベク語風トルクメン語で聞いたら、店員にまったく理解されず、非常に焦った記憶がある。そのときは、ロシア語で切り抜け、事なきを得たのだが……。のちに、辞書で調べたところ、トルクメン語で「卵」は「ユムルトカ」であることがわかり、これ以後は言い間違い(?)をするのがなくなった。さらに例を挙げると、「右」も両言語で異なる。ウズベク語では「オン」、トルクメン語では「サグ」となる。ただし、悩ましいのは、「左」が似ていることである(ウズベク語では「チャプ」、トルクメン語では「チェブ」。トルクメニスタンで白タクに乗り、わたしが目的地までナビゲートしたときも(運転手が行き先を知らない場合が多々ある)、非常にもどかしい気持ちで話した記憶がある。

「そんなことでドギマギするくらいなら、ロシア語で話せばよからう」という読者の方もおられるであろう。ウズベク人がトルクメニスタンで観光する場合も、ロシア語で意思疎通するのだろう。ただ、ウズベク語をそれなりにかじっている非ネイティブの自分としては、他のチュルク諸語に興味がいくなのは当然のことであるし、東京にいる今となってはこの悩ましい感じも何だか懐かしく感じられるのである。